

地震・津波から命を守るために



コウスケ（公助）

ジスケ（自助）

キョウスケ（共助）

広島県防災キャラクター

『タスケ三兄弟』



「災害死」ゼロを目指して
減災のキーパーソンはあなたです。

地震をはじめ、自然災害はいつどこで起きるか分かりません。

広島県では、平成25年10月、東日本大震災（平成23年3月）を踏まえた最新の知見に基づき、「広島県地震被害想定調査報告書」を取りまとめました。この調査報告書では、南海トラフ巨大地震などが発生した場合、県内で死者が1万数千人にのぼるなど甚大な被害が想定されています。

地震や津波による災害は、発生の直前には、被害を軽減するために各自が準備できる時間が短く、また、大規模な被害が起きれば復興にかかる時間や避難生活が長引くことが予想されます。

だからこそ、一人一人が「正しく恐れ、普段から備える」ことが重要です。

〇〇〇地震・津波災害から命を守るために〇〇〇

「広島県地震被害想定」では、南海トラフ巨大地震をはじめとする既に明らかとなっている断層等を震源とする11の地震と、市町役場直下を震源とする23の地震を想定地震としました。

この想定地震のうち、県内で最大の被害が生じることが想定されているのが、南海トラフ巨大地震です。

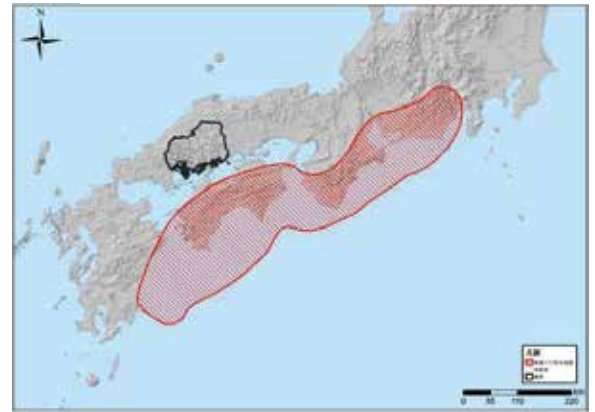
南海トラフでは、これまで100年から200年の間隔で、東海、東南海、南海地震の震源域が連動し、M（マグニチュード）8クラスの地震が繰り返し発生しています。

下の表は、M9の南海トラフ巨大地震が発生した場合、県内でどれだけの揺れや被害が起こるかを表にしたものです。

このように県内で想定される地震やそれに伴う津波が起こった際、県内各市町では、多くの被害が出るのが想定されています。

まずは、**自分の住んでいる市町にどのような被害が想定されているかを知ることが**、地震や津波から身を守る第一歩になります。

【南海トラフ巨大地震の想定震源域】



マグニチュードと震度の違いは？

マグニチュード：地震そのものの大きさ（規模）を表すものさしです。

震度：ある大きさの地震が起きた時のわたしたちが生活している所での揺れの強さのことを表します。

県内における南海トラフ巨大地震の被害想定

広島県地震被害想定調査報告書（平成25年10月）より

市町ごとの被害想定

県全体の被害想定

市町名	最大震度	津波浸水面積 (ha:1cm以上)	人的被害 (死者:人)	建物被害 (全壊棟数)	避難者数 (人)
広島市	6弱	3,817	3,907	18,696	261,513
呉市	6弱	1,136	429	5,529	45,488
竹原市	6強	425	317	2,874	11,699
三原市	6強	712	1,044	5,242	22,118
尾道市	6強	1,176	1,740	10,881	40,250
福山市	6強	3,321	6,221	16,528	138,389
府中市	6弱	-	9	418	1,063
三次市	5強	-	0	225	326
庄原市	5強	-	0	250	272
大竹市	6強	375	212	1,622	12,204
東広島市	6弱	113	33	1,260	6,769
廿日市市	6弱	343	85	911	16,652
安芸高田市	6弱	-	0	179	253
江田島市	6弱	592	285	1,390	8,557
府中町	6弱	68	86	485	5,615
海田町	6弱	250	1,039	1,429	15,067
熊野町	5強	-	0	64	165
坂町	6弱	125	19	519	4,417
安芸太田町	5強	-	0	39	34
北広島町	5強	-	0	98	108
大崎上島町	6強	252	35	810	2,430
世羅町	5強	-	0	107	121
神石高原町	5強	-	0	91	62

人的被害 (死者)	約14,760人
人的被害 (負傷者)	約22,220人
建物被害 (全壊棟数)	約70,000棟
避難者数	約59万人
経済被害 (直接被害)	約8.9兆円

地震は、いつどこで起こるか分からない。

想定より大きな地震や津波が発生することもあることを忘れないようにね。



〇〇〇 これまでの地震・津波災害を知る 〇〇〇

日本は地震大国と言われており、世界で発生する地震のおよそ10%が日本とその周辺で発生しています。

阪神・淡路大震災（平成7年）や東日本大震災（平成23年）、平成30年に発生した大阪府北部地震や北海道胆振東部地震のように、これまで大きな災害が繰り返し発生してきました。

災害から命を守るために、地震や津波についての理解を深め、日頃から避難場所や避難経路を確認したり、家族や知人との連絡方法を決めておくなど、いざというときに適切な行動がとれるよう、備えておきましょう。



大阪府北部地震によって倒れたブロック塀

[写真提供：内閣府（防災担当）]

広島県で最近起こった地震

広島県では、平成13年3月に安芸灘を震源とする「芸予地震」(M6.7)が発生し、県内では、最大震度6弱を記録しました。

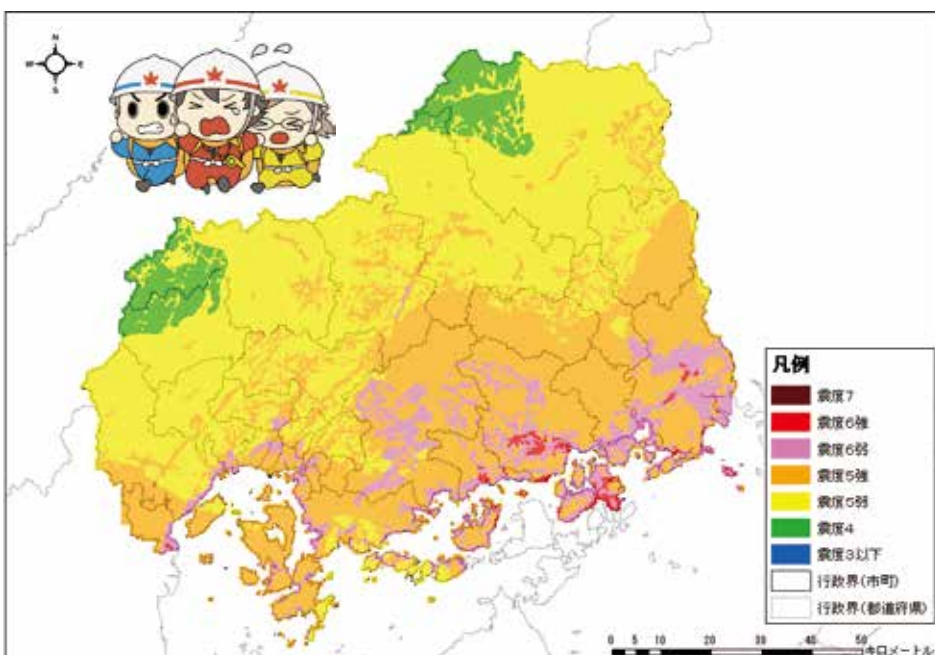
この地震により、呉市で死者1名、県内で住家65棟が全壊するなど大きな被害がありました。



北海道胆振東部地震で発生した大規模な土砂崩れ

[写真提供：内閣府（防災担当）]

南海トラフ巨大地震による県内市町の震度分布図（想定）



南海トラフ巨大地震が発生すると

- 6市町が最大震度6強
- 10市町で最大震度6弱
- 残りの市町でも最大震度5強になると想定されています。

それぞれの震度でどのようなことが起きるか、次のページを見てみましょう。 →



地震の揺れの強さを表す「震度」は10個の階級があります。広島県の想定では、南海トラフ巨大地震が起こった場合、多くの市町で震度6弱から震度6強の揺れが発生するとされ、立っていることが困難で、固定していない家具が移動するなど大変な状況となります。

大きな地震が起こった際は、気象庁が「緊急地震速報」を発表し、様々な手段を通じて、皆さんに地震の発生を知らせます。地震発生の知らせがどのように届くのか、また、地震が発生した場合にどのように命を守る行動を取り、普段からはどのような備えをしておけばよいのか。次のページを見てみましょう。

震度とゆれの状況



この表は、ある震度が観測された時に、その周辺で発生するゆれなどの現象や被害の目安を示したものです。

図：気象庁ホームページより

〇〇〇緊急地震速報とは〇〇〇

地震が発生した際、最大震度5弱以上の揺れが予想されるときに、震度4以上の揺れが予想される地域に対して、気象庁が発表し、テレビやラジオ、携帯電話、防災行政無線などを通じて皆さんのところにお知らせが届きます。

緊急地震速報を見聞きしてから、強い揺れがくるまでの時間は、**数秒から数十秒**しかありません。あわてず、まずは身の安全を守る行動をしましょう。また、緊急地震速報の発表がなくても、地震の揺れを感じたら、同じように、身の安全を守る行動をとることが大切です。



図：気象庁ホームページより

緊急地震速報の報知音を知る

緊急地震速報が皆さんのところに届く場合、テレビやラジオ、携帯電話などから**専用の報知音**が流れます。いざという時に、あわてず、素早く行動ができるよう、訓練などで気象庁のホームページ等を活用し、緊急地震速報の報知音を聴いておくこともおすすめします。

気象庁ホームページ <http://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nc/>

〇〇〇津波警報・津波注意報とは〇〇〇

地震が発生した際、気象庁は地震の規模や位置から予想される津波の高さを予測し、地震が発生してから約3分を目標に、大津波警報、津波警報または津波注意報を発表します。



大津波警報、津波警報が発表されたり、危険を感じた場合は、すぐに高いところに逃げるようにしましょう。津波による避難は、「**より遠く**」よりも「**より高く**」がポイントです。

クイズ 日常生活の中で、食材などを多めに買い置きして、使いながら使った分を買い足し、いざという時に備える備蓄法をなんと言おうでしょう。

- ① サイクルストック法 ② 非常用品備蓄法 ③ ローリングストック法

〇〇〇地震の揺れを感じた時の行動〇〇〇

地震が発生したときの適切な行動は、そのとき、その場所に応じて異なります。日頃から、いろいろな場所で地震が起こったときのことをイメージし、「今、ここで、緊急地震速報を聞いたらどう行動すべきか」を状況に応じて考える習慣を付けましょう。

◆基本の行動「安全行動1-2-3」◆


緊急地震速報が流れたり、地震の揺れを感じた際には、まず、身の安全を守ることが大切です。広島県では、「広島県『みんなで減災』一斉地震防災訓練」において、安全を守るための行動の基本として、参加者が一斉に「安全行動1-2-3」をとる訓練を実施しています。




◆それぞれの場面ごとの「安全行動」◆

人が多い施設にいる場合や、車に乗っている場合などそれぞれの状況に応じた安全を守るための行動には、次のようなものがあります。


●家や職場、学校にいるとき

	頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難する。揺れがおさまり安全になってからガスの元栓を閉める。
--	--


●商業施設など人が多い場所にいるとき

	落ち着いて行動し、慌てて出口に走り出さない。施設の係員の指示に従う。
--	------------------------------------


●鉄道やバスに乗っているとき

	立っているときはつり革や手すりにしっかりつかまる。座っているときは頭を保護して姿勢を低くする。乗務員の指示に従う。
--	---


●建物外にいるとき

	ブロック塀や自動販売機等の倒壊、看板や割れたガラスなどの落下に注意する。頭を保護しながら頑丈なビルなどに避難する。
--	---

●海のそばにいるとき

	海のそばから離れる。津波の危険があるときは高台に避難する。より遠くより、より高くを意識して逃げる。
--	---

●車を運転しているとき

	急ブレーキはかけず、徐々に速度を落として道路の左側に停止する。車を離れるときはキーをつけたままにし、ドアはロックしない。
--	--

4ページのクイズの答え:③ ローリングストック法により、普段の買い物のなかで無理なく備蓄をはじめてみましょう。

〇〇〇地震から命を守るために家や部屋の中を見直す〇〇〇

平成7年に起きた「阪神・淡路大震災」では、死者約6400人。そのうち、多くの方が家屋の倒壊などによって、助け出す時間もないまま、地震発生の直後に亡くなったという統計があります。

また、地震が起こった際のけがの原因としては、家具やガラスなどによる負傷が大半を占めます。

いざというときに備え、家族や周りの人と一緒に、自宅や職場・学校の危ないところを見直しましょう。

◆地震のとき部屋の中で起こることの例◆



●食器や電灯が落ちてくる



●重い家具が倒れる・移動する



●窓ガラスが割れる

備えの例



○家具は金具や転倒防止具で固定し、上に重いものは置かないようにする。

○家具と壁や柱の間にすき間ができないようにする。

○テレビが台から落ちないようにストッパー等を付ける。

○ガラスに飛散防止フィルムを貼り付ける。

○つり型電灯は、ワイヤーなどで固定する。

〇〇〇いざというときに備え、避難場所や避難経路を確認する〇〇〇

地震や津波が起こったとき、あわてず安全に避難するためには、普段からどこに、どこを通過して逃げるかを確認しておくことが大切です。避難場所や避難経路は、もしもの場合に備え、複数調べておくことが望ましいです。

また、家族や友人と離れているときに地震が発生することも考え、お互いの避難先や連絡方法などを知っておくことも重要です。

安全な避難先を確認する

ポイント

「避難所」や「避難場所」は、それぞれ対応している災害の種類が異なります。地震・津波に対応している、お近くの「避難所」・「避難場所」の最新情報をお住いの地域の自治体のHP等から、予め確認しておきましょう。

避難経路の安全を確認する

ポイント

避難場所までの経路に壊れそうなブロック塀など危険な場所があると安全な避難はできません。地域の避難訓練に参加するなどして、普段から安全な避難経路を確かめておきましょう。

家族との連絡方法を決めておく

ポイント

災害が発生したときに、お互いの安否を確認できるように、日頃から安否確認の方法などを話し合っておきましょう。また、「災害伝言ダイヤル171」などのサービスの使い方も知っておきましょう。



〇〇〇災害発生後の避難生活に困らないために〇〇〇

大災害が発生したときには、ライフラインが止まってしまう可能性があるため、普段から飲料水や非常食などを備蓄しておくことが大切です。また、避難所生活に必要なもの（非常時持出品）をリュックサックに詰めておき、いつでもすぐに持ち出せるように備えておきましょう。



【備蓄品・非常時持出品（例）】

- ・飲料水（3日以上） ・食料（3日以上） ・常備薬 ・懐中電灯 ・ラジオ
- ・マッチ又はライター、ローソク ・救急箱 ・下着 ・靴下 ・衣類
- ・予備の電池 ・マスク ・アルコール消毒液 ・体温計
- ・ポリ袋 ・ヘルメット ・携帯充電器 ・軍手
- ・ティッシュペーパー、ウエットティッシュ、タオル ・保険証 ・貴重品

ローリングストック法を知っていますか？

ローリングストック法とは、日常生活の中で食材などを多めに買い置きして、使いながら使った分を買い足し、いざという時に備える備蓄法です。

ローリングストックを利用すれば、防災用として特別に作られたものに限らず、日頃食べているレトルト食品やカップ麺など、「普段からの買い置き品」も立派な「備蓄品」になります！



災害への備えができているか、チェックしよう！

◆地震や津波の際の、災害危険箇所や避難所・避難場所を確認していますか。

自宅周辺の災害の危険性	避難所・避難場所
【津波による浸水の危険性】 <input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> なし	
【地震による家屋倒壊等の危険性】 <input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> なし	

◆安全な避難経路を確認していますか。

- 実際に歩いて確認済 地図上で確認済

◆緊急地震速報の報知音や、聞こえた時のとっさの行動は知っていますか？

- 知っており、訓練も実施している

◆家族や知人との連絡方法やいざというときの避難先を決めていますか？

- 連絡方法を決めている 避難先を知っている

◆備蓄品・非常時持出品を準備していますか。 準備している

お役立ちツール

チェックがつかなかった項目は、ホームページ「広島県『みんなで減災』はじめの一步」
[\(https://www.gensai.pref.hiroshima.jp/\)](https://www.gensai.pref.hiroshima.jp/) で調べよう！

お問合せ

広島県危機管理監みんなで減災推進課

〒730-8511 広島市中区基町10番52号

TEL: (082) 513-2781 FAX: (082) 227-2122